

# イリオモテヤマネコの交通事故

田口麻子(西表野生生物保護センター)



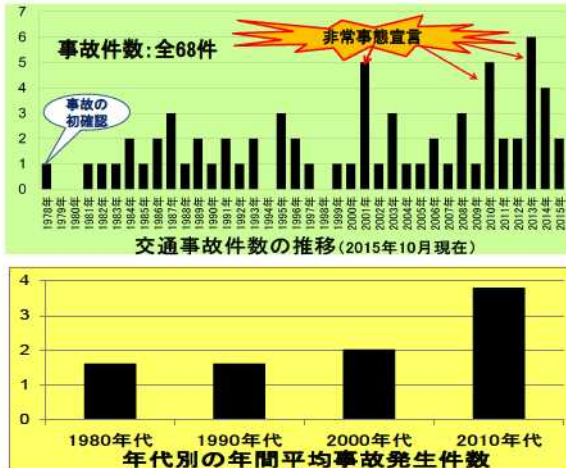
**イリオモテヤマネコ**  
*Prionailurus bengalensis iriomotensis*

- ・沖縄県西表島の固有亜種
- ・体重:3~5kg
- ・頭胴長:50~60cm
- ・生息数:約100頭
- ・絶滅危惧種 I A類
- ・国内希少野生動物植物種

西表島は沖縄本島の那覇市から南西に400km以上離れた八重山諸島の1つ。島の9割が亜熱帯性常緑広葉樹である。西表石垣国立公園に指定されている。



面積:289k㎡  
人口:約2400人




交通事故はヤマネコの生息を脅かす脅威

近年はメスや幼獣の事故が増加

性別	オス 30%	メス 70%	不明 11%
年齢	成獣 43%	幼獣 57%	不明 15%

1978~2005年, 2006~2015年

## 交通事故発生におけるイリオモテヤマネコの生態的要因

### 生息域内への幹線道路の横断



島の標高200m以下の海岸に近い低地部には湿地林や沢が豊富である。また、山地林から海岸林に至るまでの多様な植生が餌となる多様な生きものを生み出しているため、低地部はヤマネコの主要な生息地となっている。

そして、西表島の唯一の幹線道路は、この低地部分の海岸沿いを通過している。山側と海側を行き来するために、ヤマネコが道路を横断せざるをえない状況になっている。

### 二次的ロードキル




交通事故はヤマネコに限らず、他の動物でも問題となっている。車にひかれて死んだ鳥やカエル、ヘビなどの小動物は絶好の餌となるため、ヤマネコを道路へ誘引することになってしまう。実際に道路で小動物を捕食している姿が時折目撃されている。

餌に夢中になり車に気づくのが遅れたり、ひかれた小動物を探しに頻りに道路へ出てくるようになると、交通事故に遭う危険が高まる。

### 繁殖スケジュール

交通事故には季節性があり、春にはメス、夏には仔ネコ、冬にはオスが交通事故に遭いやすくなる。

メスは春に出産をすると、子育てのために活発に動き回る。夏になると成長した仔ネコが行動的になり、警戒心の薄さや経験不足から車や人を恐れずに道路に頻りに出てくることがある。オスは発情期である冬に、メスを探すために移動範囲が広がり、行動も活発になる。こうしたヤマネコの繁殖スケジュールが関連していると考えられる。



交通事故個体の季節別割合

## 交通事故発生におけるヒト側の要因

西表島への観光入域者数は長年増加傾向にあり、景気低迷や東日本大震災の影響で大きく落ち込んだが、2013年の新石垣空港開港以降は数が回復している。また、ツアー事業者数は年々増加している。



これに伴い、レンタカー利用やツアー送迎による交通量の増加、観光客及び観光業者によるスピード超過等のマナーの低下が懸念されている。

**事故当事者からの通報は1割!**

当事者からの通報は9件のみで事故全体の1割にすぎず、いまだ事故発生状況が詳しくわかっていない。しかし、島内の制限速度である40kmの超過が原因の1つであると推測される。



事故発生時の走行スピード

## 交通事故防止のための対策(西表野生生物保護センターの取り組み)



**道路標識と移動式看板**  
過去の事故現場付近に注意喚起のために道路標識(左)を設置している。目撃多発地点には移動式看板(右)を設置し、目撃情報に応じて適宜移動や撤去を行っている。看板へのアイコンとしてライトの取り付けの他、2014年夏から最新の目撃日の表示を始めた。

**ヤマネコ目撃情報マップ**  
地域住民や観光客から目撃情報を常時募っており、寄せられた目撃情報をもとに最新の目撃情報マップを毎月作成している。マップは島内各地に掲示するとともにウェブサイトやメール通信で発信している。目撃情報提供者にはオリジナルシールをお礼として渡している。

**交通事故防止モデル区間**  
2014年には、事故が多く発生している島の北岸地域の約5.5kmを事故防止モデル区間に指定した。竹富町により試験的にヤマネコ侵入防止フェンスが設置され、当センターでそのモニタリング試験を実施した。フェンスが設置後は道路での目撃や糞の発見が減少した。

**緊急車刈り**  
仔ネコの出没や連日の目撃等、交通事故の危険が特に高い場所では職員による道路脇の草刈りを実施している。道路の見通しが良くなることで運転手がヤマネコに気づきやすくなるとともに、ヤマネコの潜む場所がなくなり道路への滞在時間が短くなるのが期待できる。

## 交通事故防止のための対策(沖縄県エコロード事業)

1995年から始まった沖縄県のエコロード事業の一環として、ヤマネコや小動物の生息に配慮しつつ、道路への出没を防ぐための各種道路構造物が設置されている。



**アンダーパス(ネコボックス)**  
道路下に作られた動物用のトンネル。道路を横断することなく山と海との行き来が可能になる。現在、島内には123基が設置されている。

モニタリング調査によりヤマネコやその他の動物の利用が実際に確認されている。

**ゼブラゾーン**  
道路に凹凸がつけられており、通過する際の音や振動でヤマネコに車の存在を知らせる。スピードを出して通行すると、振動がより大きくなるため運転者が減速することも期待できる。

**道路標識・路面標識**  
ヤマネコの利用が多い場所に設置されている。土地の形状からバス等が設置できない場所でも有効である。

**側溝・縁石**  
道路脇の側溝や縁石には、小動物の道路への侵入を防ぐ工夫がなされている。これらにより小動物のロードキルを防ぎ、ヤマネコの路上へ誘引を抑制することができる。

## 交通安全PRと普及啓発



**夏の交通安全週間でのPR**  
近年は、交通安全週間にあわせて八重山警察署や関係者とともに「ヒトヤマネコ」をテーマに安全運転のPR活動を行っている。ヤマネコの事故が起こる夜間の注意喚起も始めた。

**夜の県道での注意喚起**

毎夏には竹富町内の小学生を対象にヤマネコの交通事故防止をテーマにした絵画コンクールを実施している。

目撃多発時には注意喚起のためのチラシを適宜配布・掲示している。今後はヤマネコの人馴れ・車馴れを防ぐために観察ルール作りも必要と思われる。